

平成28年度事務事業評価シート(27年度実績)

◎基本情報

事務事業名		子育て支援体制整備事業(保育所等巡回相談事業)		担当部署	健康福祉部 子どもいきいき課	
総合計画体系				根拠法令 計画など	鳴門市次世代育成支援対策行動計画	
基本政策(大項目)	2	ずっと笑顔で生きがいを感じるまちづくり		事業期間	開始	平成 22 年度
政策(中項目)	2	子どもたちの笑顔と歓声が聞こえるまち なると			終期	未定
(小項目)		児童福祉				
施策	2	児童福祉の推進				
基本事業	2	保育所の機能充実				

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 公私立保育所の児童と保護者						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	育児不安を抱える家庭や軽度の発達障がい疑われる乳幼児を、できるだけ早期に見出し、就学年齢までに、関係機関の連携により適切かつ継続的な支援を実施する。						
事業計画	27年度に何を計画していたか	保育所における巡回相談事業も平成26年度で19保育所を2巡した。保育所の現場で気になる子どもの状況を観察し、日々の保育の中での具体的ななかかわり方についてエピソードを基に医師・臨床心理士の専門家から助言及び指導を受けることにより、確実に保育の質の向上に、また、希望する保護者への相談も行うことで、保護者支援にも繋がっている。 また、巡回相談を受けた保育所・保育士や対象児童・保護者への継続的な支援ができるように、健康づくり課との連携を図りながら、今後も事業を継続していきたい。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	単位
		適切な支援を受けた人数	50	50	50	50	50	人

◎実施結果(DO)

事業実施内容	27年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	平成27年度は実施希望保育所のアンケート調査を行い、10ヶ所の保育所で巡回相談を実施。支援が必要と思われる子どもの保護者に対しては、個別に声をかける等、保護者相談も積極的に実施している。 また、子どものエピソードを基に、保育士が医師・臨床心理士などの専門家から指導を受けることにより、自分の保育を見直すきっかけとなっており、子どもの支援へと繋がっている。						
事業実施手法		<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他						
		指標名	26年度実績	27年度実績	28年度目標	29年度目標	30年度目標	単位
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1	実施保育所・園の数	8	10	13	13	13	園
	2	観察をうけた児童数	490	510	690	690	690	人
成果指標 対象にどのような効果があったか示す指標		適切な支援を受けた人数	64	72	—	—	—	人
		目標達成率(実績/目標)		144.0	—	—	—	%
今年度の進捗状況	計画どおり	事業全体の進捗状況		ほぼ計画どおり				

(千円)

財源内訳	平成27年度	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
			当初予算額	0	0	0	0	0	0
			全体予算額	550	0	0	0	180	730
			決算額	715	0	0	0	7	722
			繰越額	0	0	0	0	0	0
		人件費	正規職員(6,859千円/人)	臨時職員(2,071千円/人)	総人件費		総事業費		
		0.1	0.1	893		1,615			

【事務事業名：子育て支援体制整備事業(保育所等巡回相談事業)】
(千円)

事業費推移	年度	26年度決算	27年度決算	28年度	29年度	30年度
	事業費	666	722	939	939	939
	うち一般財源	666	7	939	939	939
	人件費	890	1,615	1,613	1,613	1,613
	総事業費	1,556	2,337	2,552	2,552	2,552

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値	所見欄
①活動に対する評価	有効性	B:概ね有効性があった	専門家から具体的な関わり方についてアドバイスを受けることにより、保護者自身が子育てに積極的になる等の変化が見られ、現場の保育士にとっても、保育の質の向上に繋げることができた。
	効率性	B:概ね効率的だった	保護者相談の件数が増えた事により、支援が必要と思われる乳幼児の発達相談や療育サービスに繋げることができた。
②成果に対する評価	指標名	適切な支援を受けた人数	保育の現場で気になる子どもの状況を観察し、保育所における具体的な関わり方について、エピソードを基に、専門家である医師・臨床心理士から助言及び指導を受けることにより、保育士の資質が向上し、保護者相談の実施の結果、保護者への積極的な支援に繋がった。
	目標	50 人	
	実績	72 人	
	評価	A:目標を達成できた	
③総合的な評価		B	核家族化の進行や共働き家庭の増加により、子育てに悩みを抱く家庭は増加しており、臨床心理士等により専門的なアドバイスを受けることのできる機会は確保できているが、継続実施するための事業の検討が必要である。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	平成27年度、巡回相談の方法や回数等について検討した結果を踏まえ、28年度は公私立保育所12ヶ所で巡回相談を実施する。巡回相談の実施回数の増加を希望する保育所も多いため、医師・臨床心理士等専門家の人材確保や事業費の維持が今後も必要となる。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	3
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	平成28年度	医師・臨床心理士・保健師・保育士等が連携し、育児不安を抱える保護者や発達障がいが見られる乳幼児に対し、継続した支援の充実が図れるよう、さらなる事業内容の見直し、検討を行うとともに、関係機関との連携強化に努める。			
	平成29年度	継続			